

# デジタル・アーカイブの紹介

## 「太宰治自筆ノート」について

医学情報グループ係長 齋藤 香織

### 【太宰自筆ノートの来歴】

2009年9月、小野正文（おの まさふみ）氏のご子息である小野正俊氏より、太宰治自筆ノートが本学に寄贈されました。ノートは2冊あり、1年次の英語と2年次の修身です。

小野正文氏は著名な郷土文学研究家で、太宰にとっては高等学校と帝国大学の先輩にあたり、太宰に関しても多数の著書を執筆しています。ノートはもともと正文氏が所持していたものですが、正文氏が死去後、正俊氏の意向により、弘前大学へ寄贈されました。本学へ寄贈される以前には青森県立文学館に寄託されており、県立文学館ではノートを写真撮影したものを資料集として刊行しています。

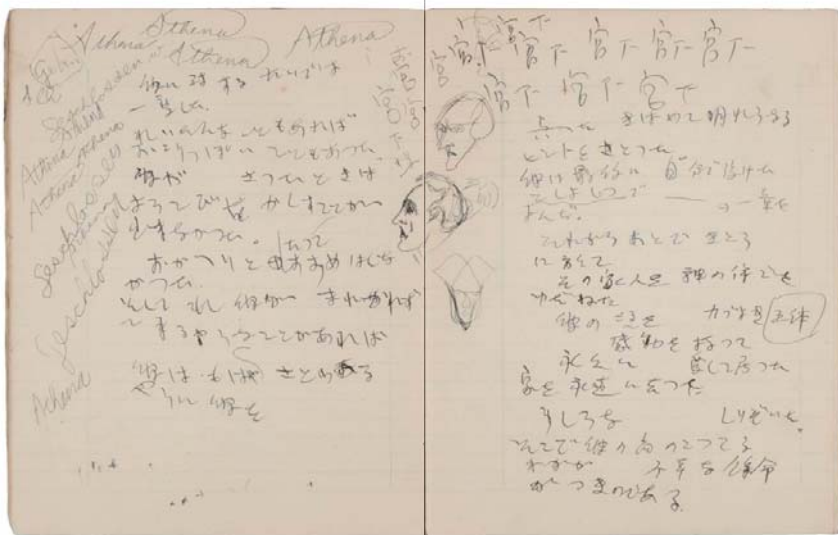
なお、太宰の自筆ノートは他にも存在しており、2013年に中学校・高等学校時代のノート、日記など22点が日本近代文学館に寄贈されています。こちらは太宰の実兄津島文治氏が保管していたものとのことです。いずれも太宰の直筆によるもので、1冊1冊が世界に1点しかない貴重な資料です。

### 【ノートの内容】

英語のノートは、表紙に弘前高校の校章が刷り込まれ、裏表紙に「今泉本店特製」との表記が見えることから、弘前高等学校の生徒用に作成されたものと思われます。今泉本店は、古くから弘前市の中心部にあった書店で、2000年に閉店しました。

ノートには、英文学作品の日本語訳が記されており、第1年次の英語で「読方読解」の授業のものと思われると推測されます。安藤宏氏の分析によると、教員が読み上げる訳文を口述筆記したものらしく、書き留めるのが間に合わなかったのか意味不明な文言が多々あるとのこと。

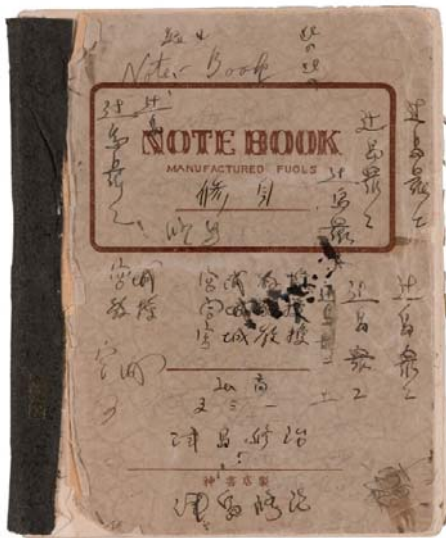
ノートは途中まで記された後、最後から天地逆に再び使用されています。多くの落書きがあり、人物の顔、英単語、英語・日本語による自己の署名などが見られます。文字は殴り書き



英語ノート 64-65 ページ

で読みづらいですが、慣れるとそれなりに読めてきます。なお、当館ではノート2冊の翻刻も刊行しています。

英語のノートには天地逆のページがあるため、デジタル化するにあたり、上下反転できる機能をつけました。ノートは見開きの状態で表示され、ページをめくる感覚で読むことができます。



修身ノート表紙

修身のノートは、今泉本店製ではなく「神書店製」と表記されています。内容は、「吾人ノ国家観及び吾国体」「国家ト個人ナラビニ愛国心」など4章から構成されています。ノートは38ページまで使用されており、あとは白紙で、終わりの部分に7ページにわたる落書きがあります。

英語同様、講義を口述筆記したものと思われませんが、英語のノートが漢字とひらがな表記だったのに対し、修身のノートは漢字とカタカナ表記で書かれています。このノートにも多くの落書きがあり、教員に見られたときのため表紙くらいは綺麗にしておいたほうがいいのではと心配になります。人物画、本名の津島修治、ペンネームの一つである辻島衆二、「細胞文芸（太宰が弘前高等学校時代に発行した同人誌）」の文字、英単語などが見られます。表紙には担当した教員名と思われる「宮城教授」という文字も見えます。

#### 【ノートについての研究など】

平成22年度と23年度の2年間、この2冊のノートに関する研究プロジェクトが生まれ、人文学部と教育学部の教員、および外部有識者が参加しました。太宰が鑑賞したと推測される映画と上映していた映画館、当時の官立高等学校の教育制度、ノートに記述された講義の内容、落書きの人物画に描かれたモデル等について、それぞれが調査研究を行いました。その成果として、報告集2冊を刊行し、当館でも所蔵しています。

なお、弘前大学出版会ではこの2冊のノートの複製品を作成し、大学生協を通じて販売も行っています。製本・紙質の違いもあり、実物に比べると分厚いですが、実物のノートで取れているページまで、取れた状態で再現しています。当館にも寄贈されており、貸出もできますので、興味のある方は手にとってみてはいかがでしょうか。



修身ノート終わり部分の落書き

(さいとう かおり)

#### 参考資料

- ・「平成22年度太宰治自筆ノート研究プロジェクト成果報告集」  
太宰治自筆ノート研究プロジェクト[編]、弘前大学、2011年
- ・「平成23年度太宰治自筆ノート研究プロジェクト成果報告集」弘前大学  
太宰治自筆ノート研究プロジェクト[編]、弘前大学、2012年
- ・「解説 太宰治の旧制高校時代のノートについて」安藤宏著、  
『資料集第五輯 太宰治・旧制高校時代ノート「英語」「修身」』、青森県近代文学館、  
2008年、p.142-149
- ・「翻刻 太宰治自筆ノート [英語：修身]」弘前大学附属図書館編、2012年